



114
A 3049



新聞雜誌ニ對スル郵稅全廢ノ議

蒙ヲ啓キ幽ヲ闡キ智見ヲ擴メ事情ヲ悉シ之ヲ議シ之ヲ論シ以テ世道ノ維持ヲ助ケ以テ人文ノ發達ヲ促ス新聞雜誌ノ効亦大ナラスヤ邦國ノ文野ハ新聞雜誌ノ發達如何ニ視テ之ヲトスルヲ得ヘシ是レ何人モ首肯スル所ナリ斯業ハ困難ヨリ發達セシメサルヘカラス此事タル惟リ鉛槧操觚ニ從事スルモノ、責務タルノミナラス一國主治者ノ責務ナリ鉛槧操觚ニ從事スルモノ、斯業ニ鞠躬黽勉セサルヘカラサルト共一國主治者タルモノ亦タ斯業ヲ迎フルノ門戸ヲ開通シ斯業ニ横ハルノ障碍ヲ排除セサルヘカラス而シテ後斯業ノ發達始メテ期スルニ足ル歐米各國ニ於テハ單ニ新聞雜誌ノ郵稅ヲ低下スルノミナラス特ニ郵便局ニ於テ豫約媒介ノ法ヲ設クル等ノ如キ亦タ之カ爲ナリ我國斯業ノ發達セサルヤ久シ斯業ニ從事スルモノ、熱誠足ラサルアリテ然ルカ黽勉至ラサルアリテ然ルカ葢シ之レアラシ然レモ之ト全時ニ一國主治者タルモノ斯業ヲ迎フルノ門戸ヲ開通シ斯業ニ横ハルノ障碍ヲ排除スルノ道ニ於テ悉サ、ルモノ又之レナクンハアラス新聞紙ニ對スル郵稅ハ眞ニ其ノ一タルモノト謂ハサルヘカラス吾人ハ新聞紙ニ對スル郵稅ヲ以テ絶對

大正十一年四月
侯爵郵寄贈



的不理ナリト唱フルモノニアラス否寧ロ當然ノ事トナス而シテ此言ヲ敢テ
 スル所以ノモノハ之ヲ我國ノ事情ニ察シ之ヲ泰西ノ形勢ニ鑑ミ彼我人文ノ
 發達ニ甚シキ徑庭アルヲ悲ミ而モ其人文ヲ發達セシムルノ方策トシテハ必
 ヤ斯業ノ力ニ藉ルノ外ナク既ニ斯業ノ力ニ藉ルノ外ナキ以上ハ其ノ普及ヲ
 圖リ其効力ヲ大ニセサルヘカラサルヲ認メ茲ニ新聞雜誌ニ對スル郵税ノ全
 廢ヲ斷行スルヲ以テ時宜ニ適セル良計ナリトス乞フ其然ル所以ヲ述ヘン
 最近ノ統計(明治三十年十二月刊行第十六統計年鑑)ニ徵スルニ全國ニ於テ刊
 行スル新聞雜誌ノ數并ニ發行高等左ノ如シ

新聞雜誌ノ數	一ケ年間ノ發兌部數	購求及配付セ ラレシ部數	全國ノ人口	一ケ年一人ニ 對スル割合
七五三	四〇九四二九五二八	四〇七九七八一〇二	四二二七〇六二〇	九六四

今之ヲ府縣別ニシテ最モ多キ處ト最モ少キ處トヲ示サンニ

府縣名	種類	一ケ年發兌部數	購求及配付セ ラレシ部數	人口	一ケ年一人ニ 對スル部數
東京府	二〇三	一八三三九一五四	一一九一〇一七六七	一四四七八三九	八二、二六
大府坂	五九	五二八四〇三〇七	二九三二八七八四	一二六五五八七	二二、一五

府縣名	種類	一ケ年發兌部數	購求及配付セ ラレシ部數	人口	一ケ年一人ニ 對スル部數
和歌山縣	八	一〇〇九九六三	二二七九七二三	六五八四九一	三、三六
宮崎縣	三	二八四六〇六	一一三三七〇〇三	四三三三九五	二、八五
巖手縣	三	二八九五六二	二二〇三七九二	七二〇五九八	二、九六

更ニ東北五縣ノ割合ヲ左ニ掲ケン

縣名	種類	一ケ年發兌部數	購求及配付セ ラレシ部數	人口	一ケ年一人ニ 對スル部數
宮城縣		一二三、五七四、一〇八	五、二〇〇、四〇三	八〇八、九七六	六、四〇
秋田縣		一一一、四九三、八〇二	四、〇三八、三二〇	七四六、〇四五	五、四一
青森縣		二一、四七二、二五三	三、二五〇、八三二	五八七、一二三	五、五三
福島縣		八一、六四〇、八三七	三、八八五、九二五	一、〇一二、八九四	三、三九
山形縣		一四一、五三八、三二九	三、二六六、七一九	八〇一、三四三	四、〇七

前二表ニ示ス所ノ如クニシテ即チ我カ巖手ノ如キハ一人ニ付僅カニ一枚九
 六ニ當リ東北ニ於テハ最末位ニアリ全國ニ於テハ漸クニシテ宮崎ノ上ニア
 リ而シテ全國ノ中其最多トスル所ノ東京ニシテ猶八十一枚一九ニ過キス今
 試ニ千八百九十七年佛國巴里ノ刊行ニ係ル「アルマナツクハセシエト」ナル一
 書ニ徵スルニ同國發行ノ新聞雜誌ノ總種類ハ實ニ五千七百九十一種ニシテ

其中巴里ニテ發行スルモノハ二千四百〇五種ニ上リ其發行ノ高ハ二百萬以上ニシテ同地人口ニ比例スルニ一人ニテ一日各一枚以上ヲ購讀スルノ割合ナリトス豈ニ驚クヘキニアラスヤ夫レ此ノ如レ英獨佛等ノ所謂一等國ニハ到底企及シ得ヘカラサルノミナラス西葡瑞其他ノ二等三等國ニ對スルモ猶ホ迥ニ其ノ後塵ヲ拜スルノ已ムヲ得サルモノアルニアラスヤ新聞雜誌ノ發達如何ヲ以テ其ノ國文野ノ程度ヲトスヘシトセハ實ニ忸怩トシテ言ノ出ツル所ヲ知ラサルナリ

統計ノ示ス所ノ結果ニ據リテ推想スルニ交通ノ便開ケサル所ハ即チ新聞紙効力ノ及ハサル所新聞紙ノ効力及ハサル所ハ即チ人文ノ發達セサル所ナリ我縣ノ地理形勢如何ヲ見ヨ宮崎和歌山ニ視ヨ將タ東北各縣ニ視ヨ皆以上ノ事實ヲ証シテ餘師アルニアラスヤ更ニ我國ノ歐米各國ニ及ハサル所以ヲ觀ヨ何レカ交通機關ノ具不具ニ關係セサルモノソ又以テ交通機關ノ如何ニ新聞事業ニ密接ナル關係ヲ有スルカノ一斑ヲ推知スルニ足ルヘシ夫レ新聞事業ノ交通機關ト相終始スル此ノ如シ然レモ道路改築ノ如キ鐵道普及ノ如キ一朝一夕ノ能スル所ニアラス然ハ則チ新聞事業ノ進歩ハ得テ望ムヘカラサ

ルカ人文ノ發達ハ得テ期スヘカラサルカ胡爲ソ其レ然ラン既ニ斯業ノ進歩ヲ以テ刻下ノ急務ナリト認メ而モ之カ發達ノ便ニ資スルモノニシテ其効ヲ收ムルニ速カナルモノアラハ之ヲ斷行スルニ躊躇スヘケンヤ郵稅全廢ノ事ノ如キ即チ其ノ一タリ

抑モ我全國一年間ニ於ケル新聞雜誌全部ノ中ニ就テ郵便ノ力ニ依リテ各地ニ配付セラル、モノヲ見ルニ其數八千六百八十萬一千八百七十五(同前統計年鑑ニヨル)ナリトス之ニ要スル郵稅一部ニ付金五厘トスレハ其總部數ニ對スル金額ハ四拾參萬四千九圓參拾七錢五厘ニシテ之レテ遞信一省ノ歲入千四百六拾七萬五千七百貳拾七圓參拾參錢貳厘(廿九年度收入決算額)爾モ實際ノ收入尙ホ參百四拾萬圓ヲ剩シタルヨリ見レハ實ニ九牛ノ一毛タルニ過キス而シテ此ノ郵稅ノアルヲ以テ新聞事業ノ振興ヲ障ヘ之レアルヲ以テ人文ノ發達ヲ碍クモノトセハ之ヲ廢スルト存スルトノ利害得失タルハ言ハスレテ明ナリ願フニ新聞ノ事タル固ヨリ尋常一般ノ營利事業ト異ナリ其ノ公共的業務ノ性質ヲ帶フルモノタルコトハ營業稅賦課ノ以外ニ置カレタルノ一事ヲ以テスルモ主治者ノ意ヲ測知スルニ難カラス且ツ夫レ交通機關ニシテ

普テ各地ニ布設セラレ、ノ曉ニ達セハ新聞紙ノ多クハ皆鐵道ノ便ニ藉リ
テ發送ノ手續キニ及フヘキモノニシテ遂ニハ郵便ニ托スルノ迂愚ヲ爲サ、
ルヘシ又以テ該郵稅ハ永久重キヲ置ク可キノ稅源タラサルヲ知ルニ足レリ
且ツ夫レ新聞雜誌發行ノ所在地タル一二等ノ郵便電信本支局ヲ百ト見做シ
日ニ幾回トナク新聞雜誌發着ノ都度郵便切手ノ貼用并ニ汚損ノ如何ヲ精査
シ兼テ消印等ニ從事スルモノヲ假リニ一局ニ付五人ト定メ一人ノ俸給一ケ
月平均金拾圓宛ヲ要ストセンカ一ケ年百局ニ於テ六萬圓ヲ費スヘシ郵稅ニ
シテ全廢セラレンカ獨リ給料ノミナラス其他ノ經費ニ於テモ必ス幾許ノ節
減ヲ見シ是レ豈ニ補填ノ一方法タラストセンヤ

曩キニハ新聞紙ニ對スル郵稅一錢ナリシニ明治廿二年後藤伯遞相ノ任タリ
レニ方リ五厘ヲ減シテ其ノ半額ト爲スヤ朝野共ニ其活斷ニ信賴シ噴々其ノ
美譽タルヲ稱賛シ爾來新聞事業ノ發達駸々トシテ頓ニ其面目ヲ改メ以テ今
日ニ至レリ然ルニ今之ヲ全ク無稅ト爲スノ斷ニ出テテハ企業ノ發達進步ハ
豈啻ニ半額遞減ノ比ナランヤ歲月ヲ經ル遠カラスレテ隆運現時ニ倍加スル
ヤ必セリ而シテ其結果タル啻ニ世道ノ維持ヲ助ケ八文ノ發達ヲ促スノミナ

ラス一方ニ於テハ頓ニ用紙其他斯業ニ要スル諸品ノ需用ヲ加ヘ營業稅中又
若干ノ増額ヲ見ルニ至ランカ豈亦補填ノ一方法ナラストセンヤ而シテ人文
ノ發達ハ益事端ノ複雜ヲ來シ事端ノ複雜ハ大ニ信書其他ノ數ヲ加フヘキハ
當然ニシテ之ニ伴フ郵稅ハ更ニ國庫ノ歲入ヲ増シ來ルヘキハ明ナリ是亦間
接ニ起ル利益ニアラスヤ

思フニ郵稅ノ新聞事業發達ニ莫大ナル障礙ヲ與フルモノタルコトハ當業者
夙ニ之ヲ覺ラサルニ非ス而シテ之レカ全廢ヲ議セサル者ハ時運未ダ可ナラ
サルモノアレハナリ且ツ實際ノ實情ヲ吐露スレハ障礙ハ即チ障礙ナリト雖
モ其ノ直接ノ負擔ハ一ニ係リテ購讀者ノ頭上ニ存スルヲ以テ當業者ハ甚レ
キ痛苦ヲ感セス從テ之カ障礙ヲ除却センコトヲ敢テセザリレカ如シ是レ畢
竟一時姑息ノ所爲ニシテ其ノ本源タル當業ノ擴張ニ取リテ一日モ忽諸ニ付
スヘカラサルノ緊要問題ナリトス故ニ今吾人自ラ揣ラス進ミテ此ノ議ヲ草
シ以テ其是非ヲ廣ク世ノ識者ニ問ハントス當局者タルモノ此時ニ於テ宜シ
ク位地ヲ機先ノ優勢ニ占メ一刀兩斷以テ之カ全廢ノ舉ニ出テシカ海内其ノ
功蹟ニ謳歌スルモノ滔々トシテ皆然ルヲ信スルナリ

以上主張スル所ニ關シテハ別ニ一事切實ナル理由ノ存スルモノアリ熟々我國刻下ノ状態ヲ觀察スルニ貧富智愚ノ懸隔次第ニ甚シク大農ハ小農ヲ併呑シ大資本家ハ小資本家ヲ吸收シ一ハ九天ノ上ニアリ一ハ九地ノ底ニ沈ム此ノ弊事ニシテ底止スル所ナカラシカ吾人或ハ恐ル夫ノ共產黨若クハ社會黨ト稱スル一種忌ムヘキ分子蔓延ノ端或ハ是レヨリ開カシトテ夫レ然リ然ルニモ拘ラス社會百般ノ現象タル富者智者ニ便宜ヲ與ヘテ遺ス所ナク是ヲ以テ富者ハ彌々富ミ貧者ハ倍々貧シク一言以テ之レヲ蔽ヘハ文明ノ餘澤ハ惟リ富者智者ヲ潤シテ貧者愚者ハ之レニ與ラス例セハ人文發達ノ一要素タル新聞雜誌ノ如キ通邑大都ニアリテ文明ノ餘澤ニ浴シツ、アル富者智者ハ發送配布ノ點ニ於テハ厘毛ヲ費サス一定購價ノ下ニ迅速ニ之レヲ閱覽スルヲ得ヘシト雖モ寒村僻落ニ棲息スル多數ノ貧者愚者ハ縱令新聞購讀ニ意アリトスルモ一定購價ノ外別ニ相當ノ郵稅ヲ負擔セサルヘカラス此等ノ障礙ハ直々ニ人文發達ヲ害シ啓蒙闡幽ヲ妨ケ其ノ貧愚ナルモノハ依然トシテ貧愚ニ其ノ蒙昧ナルモノハ依然トシテ蒙昧ニ其ノ結果タル遂ニ此ノ不權衡ナル社會不整頓ナル社會ヲ現出スルニ至ル勿論這般弊事ノ原因ニ至リテハ單

ニ新聞雜誌ノ普及ト否トノ一事ニ止マルニアラスシテ他ニ種々之レアルヘシト雖モ新聞雜誌ノ普及スルトモセサルトハ又少ナクトモ之カ原因ノ一タリトセハ郵稅全廢ノ事倍々刻下ノ急務タラスンハアラス

今ヤ當局者ハ漸ク新聞雜誌ノ効力ヲ認メ先キニ已ニ空前絶後ノ酷法タル發行停止ノ制裁ヲ撤シ言論自由ノ資ニ供スルニ至ル區々ノ郵稅免除ニ於テ何カアラン

蓋シ帝國ノ財政刻下極メテ困頓ノ狀アルハ誰カ之ヲ知ラザラン苟モ新聞雜誌ノ郵稅ニシテ賴リテ以テ一方ノ重ヲ托スルニ足ルノ財源ナラシメハ吾人漫リニ之カ全廢ヲ今日ニ主唱スルモノニアラスト雖モ前條已ニ之ヲ悉シタルカ如ク其ノ金額ヨリスレハ僅々四拾萬圓内外ニ過キス其ノ補填ノ途ヨリセハ敢テ一二ニシテ止ラス固ヨリ以テ帝國財政ノ根本ニ些ノ影響ヲモ波及セシメスシテ寧ロ早晚歲入ノ増大ヲ來スヘク而シテ其功果ノ及ホス所ハ人文ノ發達トナリ相互意志ノ聯通トナリ彼我形勢ノ詳悉トナリ上大勢ヲ藐視スルノ謗ナク下蒙昧ニ泣クノ怨ナカラントス新聞雜誌ニ對スル郵稅全廢ノ一事眞ニ今日ニ於テ斷行セサルヘカラサルノ要ヲ見ル敢テ此議アル所以ナリ

明治卅一年八月十八日